

Cバスの支線12月から 「さつき温泉」にも行けます

Cバスの路線から外れた地域へもバスが行くようにと、市当局が検討を進めてきた結果が、10日の議員懇談会で報告されました。今のCバス「本線」に対する「支線」として、乗り換えの出来る2本が新設されます。

鈴鹿インターチェンジ北部循環線

- ・スーパー一号館を発着点とし、追分、椿一宮、岸田、花川などを回る。
- ・10人乗りワゴン車を使用、1日9便（朝夕は1時間間隔）
- ・1循環の所要時間は40分。1便当たり6人を目標。

広瀬・上田線

- ・JR加佐登駅を中に、上田、川村病院、高塚、津賀、さつき温泉、広瀬などを回る。
- ・15席のマイクロバスを使用、1日15便（1時間間隔）
- ・1循環の所要時間は46分。1便当たり12人を目標。

どちらの路線も、料金は100円ですが、本線とは別料金になります。一号館や加佐登駅で乗換えが出来るような時刻設定にして、今まで行けなかった所にも乗り継いで行けるようになります。

例えば、岸田の人がさつき温泉に行く場合は、

岸田 — 一号館（乗換）— 加佐登駅（乗換）— さつき温泉 となります。所要時間は約40分、料金は300円です。

この2路線を、この12月からスタートさせ、18年3月まで「実証運行」として、利用状況をみながら走らせていきます。多くの皆さんが利用し、喜んでいただける「市民の足」になることが期待されます。

高い国保税、鈴鹿市が県トップに

11月5日、津市で国民健康保険運営協議会長・主管課長会議があり、鈴鹿市の代表として参加しました。その会議で資料として、三重県国保連合会がまとめたパンフレットを見ると、びっくりする数字が出ていました。

昨年（平成15年度）、「一人当たり国保税（料）の上位ベスト5」のトップが、わが鈴鹿市（95,011円）になっています。県下平均額（77,556円）より22.5%高い、不名誉な第1位です。昨年度いっきに20%も増税した結果がはっきり表われています。

「収納率」は下がって、県下66位のビりに

一方では必然的に「払えない」人が急増して、国保税収納率は87.19%で、66位、これは県下66市町村の「ビリ」です。

「県下1高い国保税、県下ビリの収納率」、この汚名を返上するには、引き下げ、減免などの対策が必要です。

その他の数字も紹介します。「一人当たり療養額」は310,080円で60位、「一人当たり保健事業費」は718円・46位。鈴鹿市民がよそよりも多く医者にかかるから税金が上がるという因果関係はないようです。

お金の心配せずに、まず病院に

市内のAさんからの深刻な相談・1年前にガンと診断、手術をすすめられたが、手術代が100万円もかかるそうで、お金がないのでそのままにしている。薬でごまかしているが、だんだん悪くなってくる。

高額療養費の「委任払い」という方法があります

入院や手術などで多くの自己負担金を支払ったときには、あとで「高額療養費」として国保からお金が返ってきます。問題は、いったん自分で払って、返ってくるのが2～3ヵ月後という制度になっていることです。

そこで「委任払い」という方法を取れば、病院が高額療養費分を立て替えて、あとで市から病院に支払うことになり、患者負担は月3万円台（住民税非課税の場合）ですみます。ガマンせずに、気軽に病院に相談しましょう。

海山町へ4回のトラック救援物資

台風21号による水害で大被害にあった海山町に、鈴鹿からも救援物資を送ろうと党議員団で呼びかけたところ、多くの市民の皆さんからたくさんの品物が届きました。1回ではとても運びきれないので11月4日、5日の2回、2トントラックに満載して送り出しました。

6日に現地の共産党が行なったバザーでは、500人も町民が訪れて、めいめいの必要なものを受け取っていき、三重県中から寄せられた品物が短時間で「売り切れ」と聞きました。

さらに8日、先日急死されたYさんの家族から、Yさんが一人で住んでいたアパートの所帯道具すべてを使ってとの申し出を受けて、トラック1台分を海山町に運びました。

鈴鹿から送った物資は、10月11日の便からのべ4回となりましたが、物資集めや分類、片道100キロの道のりをはるばる運んでもらったボランティアの皆さんの協力に感謝します。

地震、水害、各地の被災地にも救援の手を

今年の度重なる台風による水害は、三重県だけでなく岐阜県、京都府、兵庫県、四国や中国地方など広範囲に、深刻な被害をもたらしました。県内でも宮川村の復旧はこれからです。

新潟の中越地震の被害は、さらに深刻です。救済と復興の基本は、政治の責任ですが、同時に、いま住民レベルでできることも可能な限りすすめる必要があります。お金のカンパ、物品の提供、ボランティアなど、出来るところでの協力をお願いします。どこの地域にも、日本共産党の現地窓口があり、最前線での活動を進めています。申し出、問い合わせは市議団まで。

市営住宅の風呂など、個人負担はおかしい

市営住宅に入居するとき、風呂の浴槽や湯沸し器などの設備は個人負担になっています。前の住人が退去するとき以外して、次の住人がまた金をかけて取り付けるというのは、いかにも不合理です。そのまま付けておけば、どちらも助かるのに。この頃は民間アパートでも、バストイレ、エアコン、冷蔵庫、調理台などが最初から付いています。公営住宅も見習うべきです。

ずいそう

面白い！山田洋次の時代劇

「たそがれ清兵衛」につづく山田洋次監督の時代劇映画・第2作「隠し剣鬼の爪」は、前評判どおりのすばらしい出来栄だ。黒沢明の名作「七人の侍」と並べても劣らない、後世に残る名作ではないかとも思う。渥美清亡きあと、もう山田監督の、あの庶民の暮らしをしみじみと描いた作品にはお目にかかれなないとあきらめていたのが、「寅さんシリーズ」よりも、「学校シリーズ」よりも、面白くて感動する映画を見ることができて、予期せぬボーナスが出たようなうれしい気分である。

幸せとは、人間とは、何だろうと考える

藤沢周平の原作本は以前に読んであるし、映画のストーリーも早くから知っている。それでも映画の世界の中に引き込まれて、時間も忘れて物語の主人公といっしょになって喜び悲しみ、悩みたたかう。こんな映画なら何回でも見たいなと思う。物語の結末をみんなが知っている「幸せの黄色いハンカチ」も、いつも同じ所、いっぱいハンカチがはためくシーンで感動する。せりふまで覚えている有名な古典落語も、必ず同じ所で笑ってしまう。だからこそ「名作」と言われるのだろう。

主人公・片桐宗蔵と女中・きえは、お互いに好いているのに、武士と女中という「身分ちがい」のために夫婦になれない。それが藩命によって行なった果し合いの末に、宗蔵は「身分」を捨てて、蝦夷地へと旅立つことになる。そこで初めて、宗蔵はきえに「俺と一緒に行ってくれねか」とプロポーズして、物語は終わる。

観客はみんな、「ああ、やっと二人は幸せになる」と思うのだが、幕末の蝦夷に裸一貫で向かう旅立ちに、果たして幸せが待っているのだろうか。しかし観客はみんな「幸せ」を願って、この物語の続きを想像するのである。予想される苦難の数々より、それをも乗り越えていく「人間」の「愛」に希望をつなごうとするのである。

映画「学校」のラストシーンでも、「幸せって何だろう」と先生と生徒みんなで語り合うが、なかなか答えは出ない。そして、それが山田監督の、作品のすべてをつらぬくテーマであるように、私は思う。